

令和7年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

専門性の高い視覚障がい教育を実践する支援学校であるという自覚のもと、これまで培ってきた視覚障がい教育の専門性を維持・継承し、専門教育を実践する。全国の視覚障がい教育推進のリーダーとしての責任を果たす。

1. 幼児・児童・生徒・学生一人ひとりを大切に安全で安心な学校
2. 府内における視覚障がい教育のセンター的機能を果たす学校
3. 教職員が教育者としての高いプロ意識をもち、働きがいのある学校
4. 社会の変化に柔軟に対応し、職業自立を果たし社会に貢献する人材を育成する学校

2 中期的目標

1. 幼児・児童・生徒・学生一人ひとりを大切に、安全で安心な学校生活を送ることのできる教育を推進する。
 - (1) 視覚障がいに配慮した教育課程を編成する。新学習指導要領等に基づいた、「主体的・対話的で深い学び」の実現と小学部から高等部まで一貫性のある視覚障がい教育を行う。
 - (2) 幼児・児童・生徒の障がいの多様化・重複化に対応し、一人ひとりの教育的ニーズに対応した指導・支援を行う。
* R5 学校経営推進費事業「視覚障がいを伴う重複障がい児の教育充実プロジェクト」に取組み環境を整備⇒R6 年度授業での実践と確認、教員研修⇒R7 年度には取組みと成果を全国に発信する。
 - (3) 障がいの状況に応じて ICT 機器も活用した視覚障がい教育を積極的に進める。
* 学校教育自己診断の「ICT を活用した教育」について児童生徒学生の肯定的意見が令和8年度に70%(R4 58%、R5 64%、R6 65%)になることをめざす。
 - (4) 幼・小・中・高・専の一貫したキャリア教育を推進する。医療・保健・福祉・労働等関係機関との連携を密にし、一人ひとりに応じた実習先・進路先の開拓と希望する進路の実現をめざす。
* 学校教育自己診断の「一人ひとりに応じた進路学習」について、中学部・高等部・専修部の生徒学生の肯定的意見が令和8年度にそれぞれ85%以上(R5 中75%・高100%・専75%、R6 中86%・高100%・専63%)になることをめざす。
 - (5) 幼児・児童・生徒・学生の人権に配慮した教育を徹底する。管理職を含めすべての教職員が自らの人権意識を絶えず見つめなおし、人権感覚を高める。
 - (6) 「医療的ケア安全委員会」及び「特別な配慮を要する幼児・児童・生徒に対する検討委員会」を中心に、安全なケア・配慮を行うための校内体制を整える。
 - (7) 自然災害や不審者等から幼児・児童・生徒・学生の命を守るために、防災・防犯教育を推進し、災害等に備えた危機管理体制を再点検し、一層の充実に努める。
 - (8) 保護者・保証人に対して様々な情報提供を積極的に行うとともに、学校教育自己診断・授業アンケート・学校運営協議会への意見書などを通して保護者・保証人からの意見収集に努め、学校との信頼関係を一層強くする。
2. 視覚障がい教育のセンター的機能を一層充実させ、府内における視覚障がい教育のセンター的機能を果たす。
 - (1) インクルーシブ教育システム構築の理念のもと連続性のある学びの場の確保のため、大阪の視覚障がい教育と地域支援体制の充実に努める。
 - (2) 視覚障がいへの理解の啓発活動を推進する。
ア 視覚障がい及び視覚障がい教育についての理解啓発を進めるため、あらゆる機会を活用して情報発信を行う。
イ 保健・医療・福祉・労働などの関係機関と連携し、早期からの支援を含め、視覚障がい教育への一層の理解推進を図る。
 - (3) 視覚に障がいがあり支援の必要な方々に必要な情報が伝わるよう、本校の教育活動の周知などを活発に行う。
3. 教職員が教育者としてのプロ意識をもち、専門性を向上させることができ、働きがいのある学校づくりをすすめる。
 - (1) 授業観察や研究授業等を活用して、教員の授業力の向上と授業改善を図る。
 - (2) 視覚障がい教育の経験の少ない教職員等に本校での教育に必要な専門的指導について研修を行い、視覚支援学校としての専門性の継承と向上を図る。
 - (3) 業務の効率化等による働き方改革を推進し、幼児・児童・生徒・学生への指導時間の確保と指導の充実に努めるとともに、教職員が働きやすい職場づくりをすすめる。
4. 専修部において、社会の変化に柔軟に対応し、職業自立を果たし社会に貢献する人材を育成する。
 - (1) 専修部4学科の連携を深め、医療系に特化した強みを発揮し、教育効果を高め職業自立100%をめざす。
 - (2) 専修部での職業教育の更なる充実に努め、4学科の魅力を多方面に発信し、在籍学生数の維持に努める。
 - (3) 福祉・労働などの関係機関とも連携し、視覚障がい者が就労可能な職場の開拓を行う。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和7年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>「保護者・保証人用」「児童・生徒・学生用（以下、生徒等用）」「教職員用」で実施 回収率：保護者等 49% (前年度 51%)、生徒等 48% (53%)、教職員 89% (81%) 回収方法：昨年度に続きフォーム作成ツールで行った。回答しやすくするために一つのリンクアドレス (QR コード) から生徒等、保護者両者が入れるようにしたり、回答期間を延長したりしたが一昨年度の水準には至らなかった。 評価・集計方法：質問に対し児童は「はい、いいえ、わからない」の3段階で、その他は「とてもそう思う、すこしそう思う、あまりそうは思わない、まったくそうは思わない、わからない」の5段階で回答。「はい、とてもそう思う、すこしそう思う」を肯定的評価、「いいえ、あまりそうは思わない、まったくそうは思わない」を否定的評価として集計。</p> <p><児童・生徒・学生の集計結果> 12項目中、肯定的評価（以下、肯定）が70%以上は6項目（①、④、⑤、⑨～⑪）であり、全体的に昨年度より評価が低かった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・①「学校に行くのが楽しい」④「教職員の障がい理解」⑤「わかりやすい授業」は肯定が例年80%以上の数値を維持していたが、70%台に低下した。小中はいずれも100%であり、とくに専修部学生の評価が厳しいものになっている。 ・②「一人ひとりに応じた進路学習」は肯定63%であった。幼小学部は肯定50%、否定0%で、大人になった時の自分がまだ遠く、考えにくいと思われる。高等部、専修部はいずれも否定が20%程度あり、学校の指導支援が自分に寄り添っていないと感じている生徒学生がいることを示唆している。 ・⑥「ICTを活用した教育の取組み」は肯定が全体では61%だが、中学部・高等部では肯定100%だった。専修部では比較的年齢の高い学生のニーズに対応しているため、全体的にみると活用頻度は高くなく、否定(42%)が肯定(32%)を上回っている。 <p><保護者・保証人の集計結果> 16項目中、肯定70%以上が13項目（①～④、⑥～⑩、⑫、⑭～⑯）であり、全体的には昨年度と似た評価で推移している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・③「保護者の学校行事の参加」は肯定が85%だった。文化祭など学部を越えた行事や授業参観などを通じて、学校の取組みに関心を持っていただけた。 ・④「一人ひとりに応じた進路指導」は肯定が79%で前年度から17%上昇した。生徒等の希望に寄り添った支援が反映されたと考える。 ・⑩「幼児児童生徒学生の人権尊重」は肯定が79%で高い水準を維持している。 <p><教職員の集計結果> 25項目中、肯定70%以上は23項目で、そのうち90%以上が11項目（①、②、④、⑤、⑧、⑪～⑭、⑯、⑳）だった。また、①～⑭までの教育活動に関する14項目のうち、13項目が80%以上の高い数値を維持した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・⑤「わかりやすい授業」は肯定が95%で、否定はR5から6%、4%、3%と減少した。 ・④「障がいについての理解」は肯定が93%あり、日ごろから個々の特性に応じた学びを検討し、体験を積む学習に取り組んだ。 ・⑫「通学路は視覚障がい者にとって安全に整備されているか」は肯定が99%、否定が1%だった。近隣工事の通知やバス運行・入出庫の安全確認、歩行訓練指導など高い安全意識で取り組んでいる。この他、駅のプラットフォーム事故を防ぐために、外部への安全対策の働きかけも大切であると考え。 ・⑮「教育活動についての教職員同士の日頃の話し合いや意思の疎通」は肯定が84%で、宿泊舎生を預かる寄宿舎でも肯定が93%と高い数値であった。 ・⑱「働き方改革がすすめられているか」は肯定が63%だった。今年度から評価の2期制が始まり、実働のなかで生じた課題や実態に沿った教育課程について、これからの調整が必要となる。 ・⑳「分掌や学部・学年間の連携と機能」は肯定がR5から72%、83%、84%と年々数値が上昇している。 	<p>第1回：令和7年6月24日（火）10：00～11：30</p> <p>【協議】</p> <ul style="list-style-type: none"> （1）大阪府立大阪南視覚支援学校 学校運営協議会 実施要項 （2）令和7年度 学校概況について （3）令和7年度 学校経営計画及び学校評価について <p>【報告】</p> <ul style="list-style-type: none"> （1）使用教科書の採択について（教務部長） （2）1学期の教育活動について（部主事） （3）学校経営推進費「視覚障がいを伴う重複障がい児の教育充実プロジェクト事業」の進捗状況について（担当首席） <p>【委員からの意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重複障がいのある子どもへのICT活用方法について質問があった。 ・情報リテラシーの指導について質問があった。海外では「コンサルテーション」という考え方が浸透しており、相談しやすい環境整備が重要である。ICTステーションなど支援団体の活動の参考にするためにも、どのような困り感があるか共有してもらえると有り難いと助言があった。 ・在籍者数が減少しても個性は高まっているので、少ない教員数で教育活動を進めていくにあたり、今後も「チーム」を大切にしてほしいとの助言があった。 <p>第2回：令和7年11月25日（火）10：00～11：30</p> <p>【授業見学】</p> <p>【委員からの意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視機能に合わせた机の配置(明るさ、視野状況への配慮)や、個人のペースを大切にしながらの集団意識を育む学習などが良いという感想があった。 ・視覚障がいスポーツ(グラウンドソフトボール)を小学部の授業にも取り入れてみてはという意見があった。 <p>【報告】</p> <ul style="list-style-type: none"> （1）令和7年度 就学相談や学校見学会の状況（教務部長、部主事） （2）学校行事、各学部の概況（部主事） （3）姉妹校締結・交流に向けた取組み（教頭） <p>第3回：令和8年2月24日（火）10：00～11：30</p> <p>【協議】</p> <ul style="list-style-type: none"> （1）令和7年度 学校教育自己診断の結果について （2）令和7年度 学校経営計画及び学校評価について（案） （3）令和8年度 学校経営計画及び学校評価について（案） <p>*令和8年度中期的目標については全会一致で承認された。</p> <p>【報告】</p> <ul style="list-style-type: none"> （1）学校行事・各学部の概況について <ul style="list-style-type: none"> ・姉妹校締結について ・各学部より（幼小・中・高・専） （2）専修部の国家試験に向けての取組みと入学者決定検査の受検状況 <p>【委員からの意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断の回収率について質問があった。ICTを活用すると業務の効率化は進むが、回収率は下がってしまう。QRコードの導入など工夫されているが、更なる工夫が必要との助言があった。 ・働き方改革は大変難しい課題だが、健康を害するような長時間労働は絶対に避けるべきなので頑張してほしいとの感想があった。 ・性に関する指導について、どんな取組みをしているのか、質問があった。府立支援学校 PTA 協議会研修会で講演を聞き、保護者として勉強になることが多かった。学校でも家庭と連携しながら、性の知識を正しく持つように、将来子どもが性被害に会わないように、今必要なことに取り組んでほしいとの意見があった。 ・SNSを介した犯罪が増えている。今後ますます情報リテラシー教育が重要になると思うので、そこもしっかり取り組んでほしいとの助言があった。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R6年度値]	自己評価
1. 一人ひとりを大切に、安全で安心な学校生活を送ることのできる教育を推進	<p>(1) 幼児児童生徒の障がいの多様化・重複化に対応し、一人ひとりの教育的ニーズに対応した指導・支援を行う。</p> <p>(2) 障がいの状況に応じて、ICT 機器も活用した視覚障がい教育を積極的に進める。</p> <p>(3) 幼児児童生徒学生の人権に配慮した教育を徹底する。管理職を含めすべての教職員が自らの人権意識を絶えず見つめなおし、人権感覚を高める。</p> <p>(4) 安全な医療的ケアや特別な配慮を行うための校内体制を整える。</p> <p>(5) 防災・防犯教育を推進し、災害等に備えた危機管理体制を再点検し、一層の充実に努める。充実と一層の地域連携に努める。</p> <p>(6) 保護者等に対して様々な情報提供を積極的に行い、学校との信頼関係を一層強くする。</p>	<p>(1) ア. 学校経営推進費事業「視覚障がいを伴う重複障がい児の教育充実プロジェクト」の取組みと成果を全国に発信する イ. 重複障がい教育についての教員研修を行う。</p> <p>(2) 従来の ICT 機器の活用だけでなく、時代の変化に対応した機器やソフトの活用について、研究する機会を設ける。</p> <p>(3) ア. 人権尊重のため職員会議でのミニ研修を含め教員研修を計画的に実施する。 イ. 人権事象の未然防止・早期発見のため、担任、部主事、管理職間の情報収集を丁寧に行う。</p> <p>(4) 安全確実な医療的ケア実施のため、「医療的ケア安全委員会」等での情報共有と、養護教諭・看護師・担任間の連絡・連携を十分に行う。</p> <p>(5) ア. 大地震等の自然災害が発生した時の教職員の初動や安否確認体制を年度初めに確認する。 イ. 昨年度の防災アドバイザーからの助言を踏まえ、災害等に備えたより実践的な訓練等を実施する。</p> <p>(6) 保護者等に対し学習支援連絡網等を活用し様々な情報提供を行うとともに、学校教育自己診断や行事の感想・授業アンケート等で意見収集に努める。</p>	<p>(1) ア. 全日本盲学校教育研究大会などで、取り組みについて発表する。 イ. プロジェクトで整備した教材などの活用について、校内研修を1回以上行う。</p> <p>(2) ・ICT 利活用に関する教員研修を3回程度実施[3回]。 ・学校教育自己診断「ICT を活用した教育」の生徒等の満足度 65%以上[59%]</p> <p>(3) ア. 人権に関する教員研修前年度以上[7回] イ. 不適切な指導や体罰0件[1件] 個人情報に関する事象0件[2件]</p> <p>(4) ・医療的ケアに関する事故0件[0件] ・連携不十分によるインシデント0件[1件]</p> <p>(5) ア. 4月末までにマチコミ等を活用した安否確認練習を実施する イ. 指導部を中心に、訓練内容を再検討したうえで火災地震等の訓練を実施する。</p> <p>(6) 学校教育自己診断の「学校による情報の周知徹底」の保護者等の満足度 85%以上[76%]</p>	<p>(1) ア. 全日本盲学校教育研究大会にて発表、成果を発信(○) イ. 教材の活用研究を月1回のプロジェクトチームで実施、次年度実践の深化と教員への普及を行う(◎)</p> <p>(2) ICT 利活用研修を3回実施、学校教育自己診断「ICT を活用した教育」の生徒等の満足度 61%(△)</p> <p>(3) 職員会議での校長講話を含め人権教員研修計7回実施、不適切な指導等0件、個人情報事象1件(△)</p> <p>(4) 毎月、医療的ケア安全委員会を実施。ケア事故0件、インシデント2件。インシデントがあったもののヒヤリハット文書報告や日誌の回覧等、細かな情報共有ができています(○)</p> <p>(5) ア. 4月、学校安全会議にて災害時の対応を確認、安否確認練習は行わなかったが、育成支援チーム事業を活用した防災研修を3回実施(○) イ. 防犯・火災・震災・津波対応訓練を実施、各教員の気づきを共有(○)</p> <p>(6) PTA 役員会や連絡ツールを活用した情報発信及び収集を実施。学校教育自己診断「学校による情報の周知徹底」の保護者等の満足度 82%。目標値に届かなかったものの6ポイント上昇した(○)</p>
2. 視覚障がい教育のセンター的機能の充実	<p>(1) 大阪の視覚障がい教育と地域支援体制の充実に努める。</p> <p>(2) 視覚障がいへの理解の啓発活動を推進する。</p> <p>(3) 視覚に障がいがあり支援の必要な方に必要な情報が伝わるよう本校の教育活動の周知などを活発に行う。</p>	<p>(1) 府内の視覚障がいのある児童生徒を担当する教員の専門性向上のための相談や研修会等を実施する。</p> <p>(2) 視覚障がい及び視覚障がい教育についての理解啓発を進めるため、あらゆる機会を活用する。</p> <p>(3) 本校の地域支援や教育活動を市町村教委や眼科医等に周知したり、マスメディアにも働きかけたりする。</p>	<p>(1) 地域の小中高校・支援学校等の教員等対象の研修会を1回以上実施する。</p> <p>(2) リーディングスタッフ (LS) や指導教諭が様々な研修講師を昨年度並みに引受ける[33回]</p> <p>(3) 市町村教委の指導主事会、眼科医等に周知する機会を増やす。</p>	<p>(1) 指導教諭による公開講座と「視覚障がいを伴う重複障がい児の教育充実プロジェクト」を活用した公開講座、計2回を実施(○)</p> <p>(2) 小学校・中学校・市町村教育委員会・府立学校における研修講師を計33回(○)</p> <p>(3) 視覚障がい教育サポート説明会を2回実施、大阪あいねっとやマスメディアを活用した情報発信(○)</p>
3. 教職員が専門性を向上させ、働きがいのある学校づくり	<p>(1) 教員の授業力の向上と授業改善を図る。</p> <p>(2) 視覚障がい教育の経験の少ない教職員に必要な研修を行い専門性の継承と向上を図る。</p> <p>(3) 業務の効率化等による働き方改革を推進し、教職員が働きやすい職場づくりをすすめる。</p>	<p>(1) 管理職による授業観察や研究授業と振り返り等を活用し、授業内容や指導方法を検討する。</p> <p>(2) 指導教諭やリーディングスタッフ (LS) 等を中心に、経験年数の少ない教職員の専門性向上に必要な専門的な指導についての研修を行う。</p> <p>(3) MMP(みなみ未来プロジェクト)を中心に、引き続き業務改善について検討し、働きやすい職場づくりについて検討する。</p>	<p>(1) 学校教育自己診断で「わかりやすい授業」の生徒等の満足度 90%以上[84%]</p> <p>(2) 学校教育自己診断で「経験年数の少ない教職員の育成体制」の学部教職員の肯定的回答 80%以上[80%]</p> <p>(3) 学校教育自己診断で、 ア. 働き方改革についての全教職員の肯定的回答 75%以上[75%] イ. 気軽に話し合える職場の人間関係についての肯定的回答 85%以上[83%]</p>	<p>(1) 管理職等による授業観察を実施、振り返り以外にも適宜フィードバックを行った。学校教育自己診断「わかりやすい授業」の生徒等の満足度 74%(△)</p> <p>(2) 校内新転任研修に加え点字講座(初級・中級)を実施。学校教育自己診断「経験年数の少ない教職員の育成体制」の学部教職員の肯定的回答 76%(△)</p> <p>(3) 評価2期制を実施。小学部にて業務改善アンケートを実施、可能なところから取り組んでいる。学校教育自己診断で、 ア. 働き方改革についての全教職員の肯定的回答 63%(△) イ. 気軽に話し合える職場の人間関係についての肯定的回答 83%。目標値に届かなかったものの高い水準を維持した。(○)</p>

府立大阪南視覚支援学校

<p>4. 専修部において、職業自立を果たし社会に貢献する人材を育成</p>	<p>(1) 専修部4学科の連携を深め、医療系に特化した強みを発揮し、職業自立100%をめざす。</p> <p>(2) 専修部での職業教育の更なる充実を図り、4学科の魅力を多方面に発信し、在籍学生数の維持に努める。</p> <p>(3) 福祉・労働などの関係機関とも連携し、視覚障がい者が就労可能な職場の開拓を行う。</p>	<p>(1) 国家試験（あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師、理学療法士、柔道整復師）合格と資格を活かした就職をめざし、個々の学生に応じたきめ細かな指導を行う。</p> <p>(2) 専修部各科の取組みを全国の盲学校や高校等に積極的に発信し、本校への就学に関心を持ってもらうよう努める。</p> <p>(3) 専修部各科の進路先の幅を広げるため、実習先や就職先の開拓を推進する。</p>	<p>(1) ア. 各学科で国家試験合格率100%をめざす。 イ. 学校教育自己診断「一人ひとりに応じた進路学習」について学生の肯定的意見70%以上[63%]</p> <p>(2) ア. 専修部のオープンスクール等への参加者数、前年度より増加[18人] イ. 理学療法科、柔道整復科の入学者増[1人]</p> <p>(3) 施術所・就労移行事業所・特例子会社等への訪問数[17か所]及び新規開拓数[7か所]を昨年度以上にする。</p>	<p>(1) ア. 国家試験合格率、保健医療科100%、理療科100%、理学療法科33%、柔道整復科50%(△) イ. 学校教育自己診断「一人ひとりに応じた進路学習」について学生の肯定的意見63%(△)</p> <p>(2) あんま甲子園に参加、学生が優秀賞を獲得。本校に専修部をアピールする看板を設置。全国盲学校長会での発信等。 ア. 専修部のオープンスクール等への参加者数18人(△) イ. 理学療法科入学者1人、柔道整復科入学者2人(○)</p> <p>(3) 施術所・就労移行事業所・特例子会社等への訪問21か所、新規開拓6か所(○)</p>
----------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------